

イノベーションが紡ぐ次なる一步。

◆異業種交流

躍進の変革プロセス_ワークマンP2~5
創業 1445 年!世界最古の企業_金剛組P6~9
100 年続いたモノづくり_HARIOP10~15
これからの伝統工芸は【多様性】_金網つじP16~19
◆行事報告P20~21
◆各社リンク & アンケートP22~23
編集後記P24

会社概要

創業：飛鳥時代第30代敏達天皇7年(西暦578年)

社名：株式会社 金剛組

本社：大阪市天王寺区四天王寺1丁目14番29号

創業1445年！世界最古の企業「金剛組」

日本には歴史の古い企業が多いが、世界で一番古い企業が日本にあることをご存じだろうか？

それが、社寺建築を手掛ける金剛組だ。なんと、創業が西暦578年、1400年以上前の飛鳥時代までさかのぼる。

系図には歴代当主の名前が書かれており、系図を広げると3メートル以上になる。現在の当主は、実に41代目との事だ。

我々トヨタ紡織が2018年に創業100年を迎えた際には、1社員として誇らしい気持ちになる一方で、この誇りを未来へ引き継ぐ為になにかを背負った気になった。

いったい、1400年の重みとはどういったモノなのか？

技術は、歴史とともに



今から1400年以上も前、日本に仏教が伝えられたばかりのころ、社寺建築の技術を伝えるため、遠く百済国より呼び寄せられた宮大工がいた。その名は“金剛重光”。重光は、あの“聖徳太子”より、日本佛法最初の官寺“四天王寺”建立を命じられ、見事にその務めを果たした。

これが、金剛組の始まりだ。以来“四天王寺”を護り続けている。よって、金剛組の歴史は四天王寺と共に歩んだ歴史といえる。



金剛組会長
刀根さん



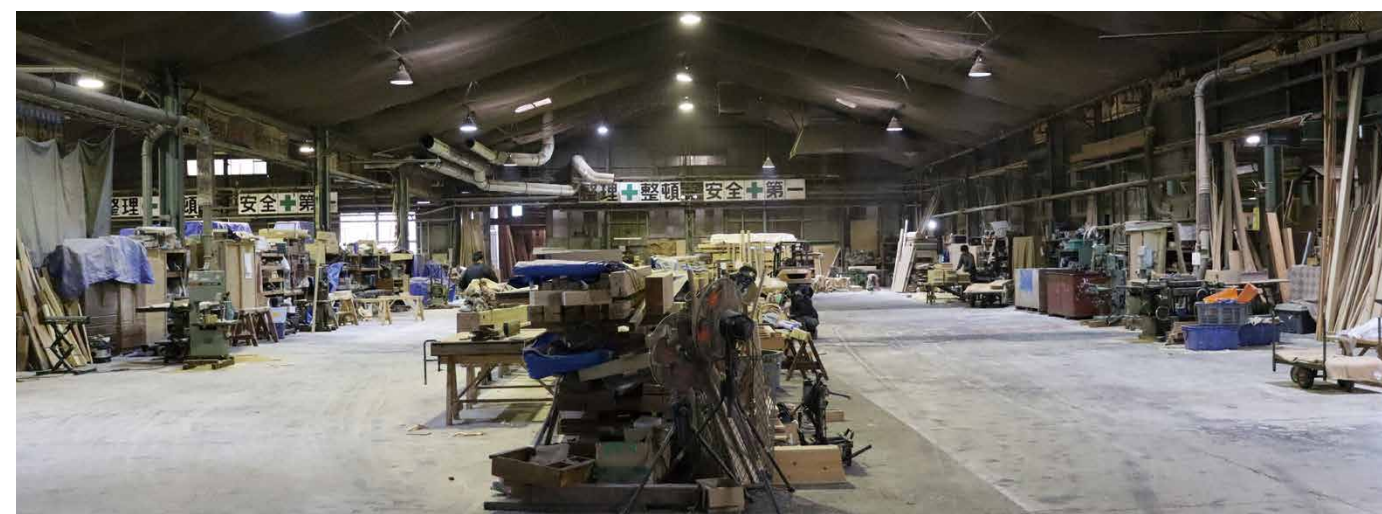
木内組代表取締役
木内さん

刀根会長は言う「どんなに立派な建物も永遠ではありません。しかし、そこに込められた人々の心は、いつまでも引き継がれてゆくもの。そんな人々の想いを受けて、確かな技術で支えてきたのが金剛組です。」

1400年の間には、劣化による修繕もあれば天災や戦災に見舞われることも多くあった。

四天王寺から請け負う仕事を完璧にこなすために技術の習得・継承に努めた結果、高度な技術が集積された。

長きに亘り歩んできた歴史。それはまさに、日本の古代から現代に至るまで全ての時代で信仰を護り伝えようとする皆の心と、それに応えようと技を磨く職人の気概との結晶だといえる。



進化ではなく、深化こそ普遍の価値

我々が、訪問させて頂いた大阪府堺市にある関西加工センターには広大な敷地に材木がおかれ、匠が腕を振るっている。

その現場で、数多くの技術を目の当たりにした。例えば、部分補修の際は、新しい木材はわざと大きめに加工して継ぎ足す。木が縮む事を“見込んでいる”。

また、上へ上へと積み上げていく塔などでは、重みによって木材が縮んでいくことを見越して、最初は隙間を空けておく。

時が経って隙間が無くなる事を“見込んで”組み上げるのだ。

この“見込み”について木内棟梁に質問を投げかけるが全て同じ答え。一言「“勘”やな」。

続けて、刀根会長が「最終形態になるのは、100年後、200年後。その答えを我々は見えない。ただし、四天王寺様を見てください。1400年にも亘り確固として存在しとる。これが証拠です。」と諭してくれる。隣で木内棟梁がゆっくりと頷く。

歴史が技術を証明しているのだ。もの凄い納得感だ。

金剛組は、修理や大改修はもちろん、新規建築においても1400年前から代々継承された基本の作り方を変更していない。それは、劣化の早い釘・金物に頼らない木組みによって建てる方法だ。

古来からの技法を忠実に継承し、更に腕を磨き深化させていった結果、他に類を見ない宮大工集団になったのだ。

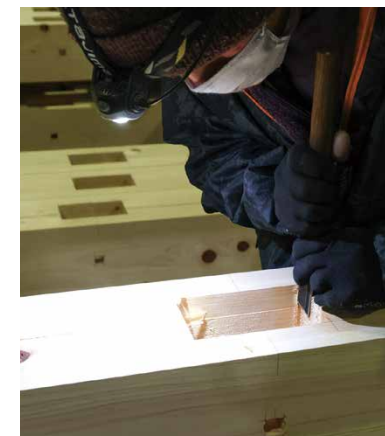


1400年続く秘訣は、技術だけではなく、“誇り”を継承した結果にもある。

金剛組の「継承」は独特である。当主・棟梁の継承＝先祖代々長男というイメージがあるが、ふさわしくなかった場合は、次男や三男、婿であったり、腕のいい宮大工を養子に迎えるなどして継承したそう。

良い仕事をし、人々の想いに応えようとする“誇り”が、確実に引き継がれているのだ。

「私たちの仕事は今すぐその真価がわかるものではありません。建ててから100年、200年と経って、ようやくいい仕事をしてきたとわかってもらえます。逆に言いますと、お寺の伽藍の100年後、200年後の姿がわかるのが金剛組です。1400年の実績・経験(体験)によって、伽藍の経年変化が理解できるのです。」



見えるところは丁寧に 見えないところは、もっと丁寧に

金剛組には、社寺建築の知識と技に特化した総勢約100名の匠がいる。匠たちは、大阪に五組、東京に二組と七組に分かれ活動をしている。

七つの組に分かれることで、伝統は護りながらも、お互い切磋琢磨しながら技術を磨いている。各組はライバル同士であるが、大きな工事にあれば共同で請け負う。こうしたときに組同士の技術交流が行われて、金剛組全体の技術レベルが向上する。



技術の高さを1つ紹介してもらった。匠達のかんな使いである。なんと、ティッシュペーパーの約3分の1の厚さで木を削る。もちろん均一にだ。ティッシュペーパー1枚の厚さが約20ミクロンなので、実に約6、7ミクロンだ。ちなみに、過去最高は木内棟梁の3ミクロンだそうだ。はにかみ笑顔で棟梁自らが教えてくれた。削られた木は、見た目では20ミクロンで削っても7ミクロンで削っても全く分からない。と、我々が呟いた際、木内棟梁は真剣な面持ちになり、こう言った「見えるところを丁寧に仕上げる事は当然。見えないところこそ、永く建物を護るため、より丁寧に心を込めて仕上げるんです。」かなで削られた材木は驚くほどにつるつるである。この工程が水をはじく表面を作り、高い耐候性を手に入れるのである。これから先も、素晴らしい技と誇りが未来(弟子)へと受け継がれ、2000年、3000年と日本の社寺建築を支えていくことは間違い無いと確信した。

建てるだけではない護持していく建築

社寺建築の図面はどのように作図されているのか。

見積り用などは本社でCADを使って製図されるが、実際に木材を加工するための図面は、加工場の2階にあるサッカーコートほどの広さほどの現寸場で、宮大工さんが自ら1/1で書き起こしている事に驚いた。

更に、設計図には接合方法などは一切記されておらず、担当を任された職人さんがその場で判断して継ぎ手技法を決めていく。技法はほぼ確立されているからこそ、「この構成が来たらこの継ぎ手を使おう」と、迷うことなく選択できてしまう。安土桃山や江戸など時代に合わせて装飾様式が異なるが、建立したい社寺の要望に沿って金剛組の持つ技術の引き出しから組み合わせ造り上げていく。技術が正確に受け継がれているからこそ各組に安心して任せられ、どの組が請け負っても同じ品質の社寺を建築することが出来るのだ。



一般建築と社寺建築の違いにも触れておこう。



大きな違いは、大黒柱(通し柱)が無いこと。あの有名な五重塔にももちろん無い。継ぎ手を駆使して組み上げられた複数の土台によって支えられて積み上げられていく。

屋根を支える梁も、てこの原理でその上にのし掛かる上層や瓦の荷重分散を行う。設計的な根拠は？と尋ねると、前述の“見込み”と同じく「勘です」という答え。



しかし、日本には8万を超える社寺が現存しており、その多くは度重なる地震を経験しながらもその姿を我々に見せ続けている。これこそが、1400年続く宮大工の経験と「勘」を証明している確固たる証拠なのだ。

社寺建築の基本となる継ぎ手の一例(四方差し)



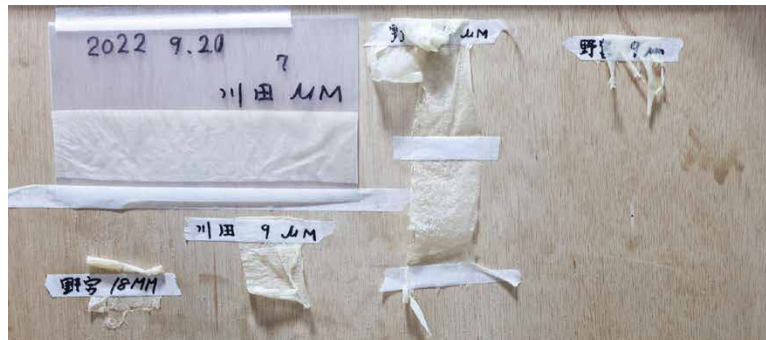
技術の伝承 圧倒的な匠の技術をどのように継承し続けているのか？

『金剛組 匠育成塾』 毎年4月から9月迄の6ヶ月間、若手宮大工の育成をしている匠育成塾。高卒以上20歳未満くらいを対象に、宮大工になりたいという入塾希望者を面接、約5名程が入塾し、各組の棟梁たちが指導。半年間で適性を判断し合格できた塾生のみが各組に配属(雇用)になる。狭き門だ。

師匠や経験豊富な職人： 宮大工の分野では、経験豊富な職人や師匠の指導が不可欠。

伝統技術の習得： 宮大工の仕事は伝統的で高度な技術が要求される。これらの技術は経験と実践を通じて継承される。手仕事や伝統的な工法を理解し、実践するには匠の根強い指導と若手の習得意欲が必要。一度弟子を取った親方は、生涯かけてその弟子の面倒を見ていき、強い絆が生まれる。

厳格な要件と責任： 宮大工の仕事は建物の構造に関わるため、非常に厳格な要件や責任が伴う。失敗は許されない場合が多く、これが新しい宮大工にとってプレッシャーとなる。しかし、一般的に宮大工育成は難しいと言われる中、金剛組が1400年の企業歴史を継続しているのは、伝統的で圧倒的に確かな技術を持つ金剛組の宮大工集団『匠会』があり、人材育成においてもその技術を時代に合わせて継続的に若手の宮大工を支援し育成する教育プログラム『匠育成塾』を取り入れている事にあるといえる。



育成塾の塾生が削ったかんなの厚み



制作途中の木組み

ご紹介 株式会社 中村社寺

本社：愛知県一宮市城崎通7丁目4番地の3

中村社寺は創業天禄元年(西暦970年)に社寺造営のため初代当主が京都から一宮に移り、この地で大工集団を束ね、一家を成したのが始まりとされ、以降愛知県を拠点に全国で社寺建築を手掛けてきました。中京地区では最も古い会社であり、全国的にも7番目に長い歴史を持つ会社です。2007年、高松建設株式会社より支援を受け、世界最古の企業である株式会社金剛組の子会社、高松建設のグループ企業となりました。1000年以上続いた伝統および先人たちの知恵や技術は失われる事なく、現代の職人たちへ継承され、さらに磨きをかけています。



愛知県尾張旭市 良福寺



岐阜県養老郡 菩薩修行道場



三重県桑名市 願證寺

取材を終えて

社寺には数多くの方の想いが宿る。だからこそ、使える部位は極力残す。そんな修繕第一を徹底した結果、その過程で先人の“知恵”を垣間見る事や、当人たちの“工夫”が生まれてきた。こうして技と誇りが途絶える事無く、1400年以上も伝承してきた。そんな金剛組は、SDGsのお手本といえよう。工夫しながら持続する。持続する為に工夫する。こう感じる「時代がようやく金剛組に追いついたのだ」と。

(編集委員：前田・樋口・宇佐美・大嶋)



今回取材させて頂いた各社様のリンクとなります。
QRコードをクリックしてリンク先へ移動できます。
ご協力ありがとうございました。

ワークマン HP



ワークマン
公式サイト
(workman.co.jp)

Workman Colors



金剛組 HP



金剛組 | 西暦 578 年創業
世界最古の企業
(kongogumi.co.jp)

剛 金剛組



HARIO HP



HARIO 株式会社 |
耐熱ガラスの
HARIO (ハリオ)
(hario.com)

HARIO

HARIOの耐熱ガラスは
リサイクルされています



金網つじ HP



京都・金網つじ |
伝統工芸・金網細工
(kanaamitsuji.com)

Instagram



金網つじ kanaamitsuji
(@kanaamitsuji)
・Instagram 写真と動画

金網つじ

京都に育まれた京金網。



今回、より皆様に広く読んで頂ける様に考え、技術会 HP にて発行させて頂きました。
そこで、ひらめきの評価や改善点を把握するためのアンケートの項目を以下の内容にて実施します。
ご協力いただけると幸いです。

■ 選択 + 自由記述：所用時間目安 1 ～ 5 分 ■ アンケート募集期間 2024 年 5 月 31 日まで



<https://forms.office.com/r/Q9JiF5wptE>

HP 掲載について

デザインについて

コンテンツについて

ページ数について

■ 取材先について

次回の取材で取り上げてほしいメーカーや業種などリクエスト



ご協力ありがとうございました。
次年度の“ひらめき”発行の
参考にさせていただきます。